

【各部署における今年度の重点目標と取り組み（各部署評価表）】年度末評価

・学年

部署名	1 学 年
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生活のけじめをつけさせる ○毎日勉強するようにさせる ○自分を知ることに関心を持てるようにさせる
方 策 (取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ① いじめや暴力的な言動を許さない ② きちんと挨拶をするようにさせる ③ 遅刻はしない(5分前行動)ようにさせる ④ 身だしなみを整えさせる ⑤ 清掃をしっかりとやるように指導する ⑥ 授業に集中し、積極的に取り組むようにさせる ⑦ 家庭学習を行い、課題は期限までにきちんと提出するようにさせる ⑧ 積極的に部活動・生徒会・学校行事に参加させる
結 果	<ul style="list-style-type: none"> ① 対応に苦慮する生徒もいて、生徒相談と連携しながら対応した。 ② まずまずだったのではない。 ③ 一部、朝の SHR の遅刻が目立つ生徒がおり、その者たちはなかなか改善しなかったが、学年集会時の集合などおおむね良好といえる。 ④ 他学年のジャージを着る生徒が増えてしまった。授業中の服装はますますであった。 ⑤ 清掃に気持ちの向かない生徒がいた。清掃監督職員と連携したい。 ⑥ 一部、指導に乗らない生徒がいる。生徒相談的内容を含め引き続き対応していく。 ⑦ 一部の生徒を除きほとんど家庭学習はしていないようだ。課題の提出状況はますますではない。 ⑧ 部活動を辞めたりする生徒が出たが、生徒会・学校行事への参加はおおむね良好。

部署名	2 学 年
今年度の重点目標	<p>3年間の目標：『社会で信頼される人になる』</p> <p>いじめや暴力的な言動は許さない</p> <p>2年次の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活「もっとけじめをつけよう」 <ul style="list-style-type: none"> ①時間を意識して行動する。 ②校則・ルールを守る。 ○学習「さらに勉強しよう」 <ul style="list-style-type: none"> ①授業の準備をしっかりとる。 ②授業に集中する。 ③課題を期限までに必ず提出する。 ○進路「より自分を知ろう」 <ul style="list-style-type: none"> ①夢を語ろう。 ②資格・検定に挑戦しよう。 ③自分の強みをつくろう。
方 策 (取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> 1 生徒面談や保護者懇談の機会を捉え、生徒および保護者に対して学年目標の周知を図る。 2 進路実現に必要なレベルの学力を身につけさせるためにより授業を大切にする習慣化を図る。 3 探究学習を通じて具体的な進路の方向性を見出し、それを実現するためのスキルを身につける支援を行う。
結 果	<ul style="list-style-type: none"> 1 学年通信・学年集会・保護者懇談会で学年目標を示し説明した。特に「校則・ルールを守る。」を達成できるように生徒に強く求め、目標を達成するように教員が指導を行った。そのため、落ち着いた学校生活を送り、校外模試や資格取得に挑戦する生徒が増えた。 2 基礎学力を身につけさせるためにタブレットを利用した AI 教材を取り入れ、朝学習を行った。またそれを使った自主学習をするように進めた。 3 教員別テーマ型講義として、各教員が研鑽を積んでいることを講義形式で行い、進路について生徒の視野を広げさせることができた。また、探究学習として進路に関して上級学校のオープンキャンパスや地元企業へのインターンシップの計画・実行させた。またSDGs に関してグループあるいは個人で調査を行い、発表することができた。

部署名	3 学 年
今年度の重点目標	1. 「自分」と「社会」のよりよいミライをつくる 2. 成人年齢にふさわしい責任ある行動をとり、社会の一員として自覚を持つ 3. 豊かな人間性を育む
方 策 (取り組み)	○生徒および保護者に対し学年目標の周知と理解を図る。 ・進路実現に向けて学習や学校活動に意欲的に取り組めるよう、生徒に寄り添い多方面から支援する。 ・これからの社会の変化に対応するための「生きる力」を育むために、家庭や地域と連携し社会全体で生徒の教育に取り組む。 ・社会の一員としての自覚や意識向上のため、報(ほう)・連(れん)・相(そう) (報告・連絡・相談)を習慣化する。 ・「明るさ・笑顔・思いやり」「いじめ・暴力的言動を許さない」「地域課題に目を向けた行動」ができる豊かな人間性を育み、多様な人々と協働して学ぶ態度を養う。
結 果	○生徒および保護者に対し学年目標の周知と理解を図る。 ・一人一人に合った適切な進路指導を、御家庭と学校とで丁寧に進めることができました。 ・これからの社会の変化に対応するための「生きる力」を育むために、家庭や地域と連携し社会全体で生徒の教育に取り組んだ。 ・11月の主権者教育を通じて、国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え判断し、行動していく力を養えた。 ・「明るさ・笑顔・思いやり」「いじめ・暴力的言動を許さない」「地域課題に目を向けた行動」ができる豊かな人間性を育み、多様な人々と協働して学ぶ態度を養った。 ・基本的自尊感情を高め「いのちの大切さ」「自分や他者のいのちを大切に思う気持ち」を更に育むように指導した。

・教科

部署名	国 語
今年度の重点目標	1 基礎学力の定着を図るとともに実践的な力を養う。 2 論理国語教材を用いるなどして、思考力・判断力・表現力を養うとともに、広く社会に関心を持ち、主体的に物事を考える力を養う。 3 ICTを活用し復習を行い、学力の定着を行う。
方 策 (取り組み)	1 授業時の計画的な漢字テストの他、漢字検定などの対策等を行い、合格率を上げる。 2 教員間の授業展開や教材の共有などを積極的に行う。 3 他教科との連携を行う。 4 生徒が自宅でも進んで学習できるように、classroom や forms による学習の方法を研究・対応していく。
結 果	1 授業時の漢字練習、漢字テストを計画的に行った。漢字検定については、生徒の意欲を喚起し、一定の受験者数を確保できた。 2 授業時の漢字テストなど共通教材の共有ができた。さらに深化を進めたい。 3 他教科との連携に向け努力を続けたい。 4 オンライン授業だけでなく、普通の授業においても電子黒板・タブレットを積極的に活用した授業ができつつある。今後、新たな授業展開や教材作成について研究を続けていきたい。

部署名	地歴公民
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ICTを様々な場面で活用し、どのように学習に対するモチベーションを高めるか、基礎学力を身につけさせるかを追求する。 感染症拡大を防ぐという世界的な取り組みの中で、これからどのように生きていったらいいのか、どのような社会を作っていたらよいかを学習の中で模索する。 総合学科における地理・歴史・公民科教育のあり方を引き続き検討する。
方策(取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 通常状況ではない中で、受け身的ではない自発的な学習の形を考え出す必要がある。教えるべき内容、身につけさせるべき力を絞り込み、明確にする必要もある。 新型コロナウイルスの世界的拡大の現状やその中で生まれてきた様々な問題点の把握、今後可能な対処法、考え方などを授業の題材として積極的に取り入れる。 一般教養としての社会科、あるいは興味関心を深める一分野としての社会科の役割を意識しながら、総合学科という仕組みの中でいかに社会科を生かしていくか、継続的に意見交換をする。(他教科とも連携しながら)
結果	<p>【重点目標の達成度合い】</p> <ol style="list-style-type: none"> オンライン、電子黒板、書画カメラ、タブレットなど、ICTを効果的に活用した授業を行うことができてきた。 各々の教員が、自分の専門分野を生かしながら生徒に主体性を持たせた授業を展開することができた。 新課程の授業のことや、研修で学んだことを科会を通じて積極的に意見交換することができた。

部署名	数学
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 基礎的な計算能力を身につけさせる。 生徒の進路希望と必要度に応じ、ひとり一人個別に対応、指導する機会をできるだけ多く設ける。 ICTを活用し復習を行い、学力の定着を行う。 新課程における数学Ⅰの指導方法および学習評価について研究する。
方策(取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1年次から、中学校までの学習内容の復習と共に、ドリル等で基礎的計算の反復練習を行う。 必要に応じて、プリント学習を行う。 宿題・週末課題を課し、点検して家庭での学習習慣を身につける。 保護者面談期間や長期休業中に、進学補習・不振者補習を実施し、それぞれの目的別の教材を準備し、演習を行う。 オンラインでの動画を活用し、復習に活用させる。 新課程における数学Ⅰの授業内容・授業評価について研究する
結果	<ol style="list-style-type: none"> 学習進度に応じて、副教材(パラレルノート)等の課題に取り組むことにより、生徒の学習習慣や、基本的な計算力を培うことができた。 夏期休業や保護者懇談会などの期間中に、進学希望者に対して補習を行い、意識の向上を図ることができた。 オンラインと対面のハイブリッド型で授業を実施した期間があった。ロイロノート等様々な機能を活用した。各教師がそれぞれ工夫を凝らした授業展開をすることができた。 新課程における数学Ⅰに関しては、生徒が主体的に学べる授業や課題を行い、一定の効果は得られた。評価方法に関しては今後も議論していく必要がある。

部署名	理科
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎・基本的な知識・技能の習得とともに、科学的な思考力・判断力と表現力を養う。 2 教科間の関連性や日常の何気ない疑問と理科との関係に気付かせることを通して主体的に学び意欲を引き出す。
方策(取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校での教科書の内容のみにとらわれず、身近なところで起こっている自然現象を取り上げ、ICT教材を効果的に活用して興味関心を持てるような授業を展開する。 2 実験・観察や課題研究を通して、理科の学習内容と身近な事柄の関係に気づかせ、興味のある事柄に関して自分で仮説を立て検証することを通して自然現象についての理解を深める。 3 授業を通して、探究的な活動を多く取り入れていく。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ● ロイロノートやすららを用いたドリルなどICT教材を活用した授業により、理科に対する興味関心を持てるような授業が行えた。 ● 探究的な学びの場面において、自身の興味から仮説を立て検証する中で、自然現象への理解を深めるとともに、仮説を実証することができた。 ● 理数系科目については、苦手意識のある生徒が多い現状がある。生徒の理解や理科への興味を引き出すことを目的とし、授業づくりを行った。

部署名	保健体育
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業を通し、生徒の基礎体力の向上を図る。 2 授業に臨む姿勢・態度を整わせ、意欲的に取り組ませる。 3 集団スポーツの中で互いに協力する姿勢を養い、協働して課題を解決する能力を高める。 4 感染症に関する知識を身に付け、自ら進んで感染防止対策を行う資質を育てる。
方策(取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 試合や練習形式の工夫を図り、運動量を確保する。また、導入段階で単元に応じた補強運動を取り入れる。 2 服装・頭髮の徹底を図り、装飾品は必ず外してから取り組ませる。安全な活動を確保するため、ルールに則った活動ができるよう指導する。 3 各単元の導入や練習の段階で、他者と協力して、取り組む内容を展開し、さらに各段階で課題と目標を設定させるよう工夫する。 4 保健の単元で知識の定着を図ることはもちろん、授業後の手洗い、消毒を呼びかけ、自律した行動が取れるよう指導する。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 講座による人数のばらつきや同時開講の講座数により、施設の確保に苦慮したこともあったが、概ね計画通りであった。 2 概ね計画通りであるが、一部では指導が浸透しにくい生徒もいた。継続的に指導をしたい。 3 大多数の生徒は、仲間と協働し、学習を深める姿勢が見られ、概ね計画通りであった。より一層生徒の学習が深まるよう引き続き課題としていきたい。 4 概ね計画通りであった。

部署名	芸術
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 作品制作や演奏活動に主体的かつ意欲的に取り組ませる。 2 芸術を通して感性を高め、芸術における表現能力の向上を図る。 3 実技技能の定着を図る。 4 電子黒板、書画カメラ、タブレットを使用した授業の実践。
方策(取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 自ら主体的に各科目の活動に取り組めるような授業展開を心がける。 2 生徒の持つ表現能力が充分発揮できるように、技術指導の工夫をする。 3 個別指導を充実させ、丁寧に指導し、希望する進路の実現につなげる。 4 電子黒板、書画カメラ、タブレットの活用方法の実践事例を共有する。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 概ね主体的に取り組めてはいるが、今後も教材研究を続けて、さらに意欲的に取り組めるように工夫をする。 2 資料を提示しながら興味をもたせ、表現の幅広さを伝えた。 3 個別指導を充実させることで、技能の定着を図り、進路実現につなげることができた。 4 電子機器やタブレットを活用した授業を共有しながら、生徒の制作活動を助けることができた。

部署名	外国語
今年度の重点目標	1 学年 学習習慣を定着させ、基礎学力を身に着ける。 2 学年 各講座の到達目標に達するよう支援をしつつ、日々の学習習慣を定着させる。 3 学年 進路実現へ向けての学習指導を実施する。
方策 (取り組み)	1 授業では総合的な学力向上を図る。また、授業や家庭学習への真摯な取り組みを促す。 2 学年、講座ごとの特性を生かした授業展開をすすめ、学力の伸長を図る。 3 英語検定、商業英語検定の実施計画及び受検への呼びかけ。 4 必要に応じて、補習、個別指導を実施する。
結果	1 学年 <ul style="list-style-type: none"> ・音読とプレゼンテーションのテストを行うことができた。 ・ロイロノートを活用して、プレゼンテーションを行うことができた。 ・ALTの授業で異文化理解を深めることができた。 2 学年 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション英語Ⅱではリスニング教材を活用し、定期テストには、リスニングを出題するなど、幅広く学習することができた。 ・テスト対策として、まとめプリントで学習の定着を図ることができた。 ・進学希望対象者に補習を行い発展問題に取り組むことができた。 3 学年 <ul style="list-style-type: none"> ・授業では、音読と読解を中心に行い、学力の定着を図った。 ・コミュニケーション英語Ⅲ発展講座や英語表現Ⅰでは、予習として課題を課し理解力の向上に役立てることができた。 ・進路実現に向けて、夏期補習を行い、必要な生徒には個別指導も行った。 ・Classroom やロイロノートを活用した授業を行い、休校やコロナ関連の欠席者にも対応することができた。

部署名	情報
今年度の重点目標	1 基礎的な情報リテラシーを身に付けさせる。 2 基本的な倫理観としての情報モラルの定着を図る。 3 新課程におけるプログラミングや情報デザインなど、新たな分野の指導法や評価と指導の一体化について研究を進める。
方策 (取り組み)	1 テキストの内容を丸写しするだけの実習ではなく、より実務的・実践的な文書や表・グラフの作成を行うなど、主体的に取り組めるよう教材を工夫する。 2 グループ討議やクラス内発表を行ったり、生徒自身にルールを作成させたりするなど、“考えさせる”情報モラル教育を行う。 3 外部研修への参加や教育課程委員会での情報共有など、積極的な情報収集を行い、指導法や評価法を探る。
結果	1 Word 実習では、具体的なシチュエーションを与えて、表現の方法を工夫させる演習を行った。 2 外部の教材や、実際の事例を用いた自作の教材で、情報モラルに関して考えさせる授業を行った。情報社会の一員であるということを意識させるため、身近な事例を使い、望ましい情報社会とはどのようなものか考えさせることができた。 3 これまで公民問わず研修に多く参加している。次年度に生かしていきたい。

部署名	商業
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスの視点から社会を見る力を育む 商業の専門性を活かし、地域と連携した学習活動・探究活動を追求する 電子黒板やタブレットなど ICT 機器を活用した新しい授業スタイルの確立 新課程における新たな分野・科目（マネジメント・コミュニケーション等）の指導方法および学習評価について研究する
方策（取り組み）	<ol style="list-style-type: none"> すべての授業において、社会とのつながりを意識させ、ビジネスの視点から社会の事象を多面的、多角的に見られるような授業展開を行う。 販売促進・販売、経営などに関する学習（マーケティング・簿記・原価計算・ビジネス実務など）を有機的に結びつけた探究活動ができるようにする。 教材研究・授業準備の時間を十分に確保し、電子黒板やタブレットによる教材、授業の展開について全授業で研究していく。またロイロノートや classroom を積極的に活用する 各種研究会や研修への積極的な参加を目指し、特にマネジメントやコミュニケーションといった新しい分野・科目の研鑽を深める 新課程における授業内容・授業評価について研究する
結果	<ul style="list-style-type: none"> 検定取得だけを目的とせず、関連事象やニュースを取り上げた授業の展開、企業と連携など各科目で実施することができた。 昨年度から継続している「まちのコイン」事業について上田市商工観光部と連携し、市内の事業所のみなさんに協力していただきながら探究学習を展開することができた。 オンライン授業はもちろんのこと、平時の授業においても電子黒板等を活用した授業が展開できた。今後も授業方法など研究を継続していきたい。 来年度からの新教育課程の授業について、内容・評価について研究を進めることができたが、今後も継続して研究していきたい。

部署名	農業
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 学びと働きを連携させた人材育成 進路実現を支援する体制づくり 基礎学力の定着を図る 危機意識を持たせ安全に作業を進める態度を養う 地域連携を進める
方策（取り組み）	<ol style="list-style-type: none"> 栽培や食品製造などの農業学習（実習）を通して、それぞれの工程に必要な知識や技術を身に付けさせながら勤労観を育み、地域に貢献できる人材を育成する。 将来を見すえた科目選択、進路希望調査に基づいたサポーターズシステムを学科内や分野間で連携を取りながら、計画的に進路支援を行って行く。 各科目におけるレポート指導を通して課題解決の力を養うとともに基礎的・基本的な学力を身につけさせる工夫を行う。資格取得を通して、意欲的に取り組む姿勢や生徒に自信を持たせ進路学習へ結びつける。 GAP、HACCP等の学習を通して、栽培や生産・加工に至る過程での危害要因に気づかせ、それを除くか減らすようにさせる。 丸子中央小学校との交流、東京農業大学との山村再生プロジェクト、農業クラブ活動、授業を通して地域連携を図り、自主性やコミュニケーション能力を養う。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 実習で知識や技術を教える際に生徒が互いに教えることでその理解を深めさせるようにした。また、同じ実習を繰り返すことで勤労に対する見方・考え方、態度等の醸成を図ることができた。 安易な科目選択をさせず、希望する進路に応じた科目選択が概ねできた。 レポート指導では、資料の作り方や読み取りを通じて表現力を身につけさせることができた。また、資格取得に取り組む生徒が例年に比べ多くなった。 GAPは、あらためて単元を設けず、関係するところで学習を進めることができた。HACCPはコロナ禍ということもあるが、衛生面に気を付けて実習を行った。 コロナ禍で交流や地域連携が計画通りでできなかったが、丸子中央小学校との交流は、工夫しながら実施することができた。また、東京農業大学との山村再生プロジェクトでは、加工実習に参加して自主性やコミュニケーション能力を養うことができた。

部署名	工業
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域貢献活動に積極的にに関わり、また社会人講師等による実技講習会を通して、生徒の意欲・想像力・職業観を高める。 2 資格取得など明確な目標設定を行なう。 3 インターシップ（企業就業体験）を通して、学校と企業の連携を図り、情報交流の推進を行なう。
方策（取り組み）	<ol style="list-style-type: none"> 1 依田川リバーフロント市民協働事業、箱山城桜ロード整備事業などの連携事業の推進及び、最新技術である ICT 技術を全面的に活用した、【i-Construction】の生産性向上に向けた施工管理など全面的な活用について等の実技指導による職業観の養成。 2 各種資格取得の学習目標を明確に示し、生徒が自ら目標達成に向けて努力できる生徒参加型の授業を追究する。 3 自己の適性・能力を見極め、将来設計に役立てるために、2・3年生を対象に現場見学、ドローンなどの各種講習会、インターシップ（就業体験）を実施する。生徒にとっては職業選択の探求だけではなく、自分が学校で学んでいる専門科目が社会でどのように生かされているか、研修・講習の場所で確かめることができ、今後の学習に活かすことにもなる。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 総合研究の地域貢献活動では、箱山城桜ロード整備事業で遊歩道の安全柵の設置、中丸子公民館駐車場の整備でコンクリート縁石や支柱建ての設置を行った。校内整備では正門改修工事を竣工させた。いずれも、生徒たちが施工方法を考え、地域の方々と協力しながら活動することができた。 2 2級土木施工管理は5名の合格。2級建築施工管理は1名の合格。放課後や休日を補習授業など努力して結果を出すことが出来た。 3 地域企業と連携して、現場見学2箇所、工場見学2箇所、伝統建築大工実習、最新測量研修などを実施し、地域社会で活躍する技術者の皆さんと交流することができた。

部署名	家庭
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 家庭や地域において、生徒が主体的に生活を創造する能力と実践的な態度を養う。 2 生活に必要な知識と技術を修得させるために実験・実習の充実を図る。 3 電子黒板やタブレットを活用した授業の実践。 4 新学習指導要領に沿った学習内容を検討・実践していく。
方策（取り組み）	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が自分の生活を振り返り、問題点・課題点をみつけ、それに対する解決策・改善策を探求し、今後の生活に活用できるようにする。パートナーシップ協定、連携事業等を積極的に活用し、地域貢献活動への参加を促す。 2 感染症対策に留意しながら実験・実習の機会をより多く取り入れるようにする。社会人講師を招聘し専門的、先進的な指導を行う。家庭科技術検定や各種コンテスト・コンクールへの応募の機会を作る。 3 タブレットや電子黒板の活用方法の実践事例を共有し、活用していく。 4 研修への積極的な参加や家庭科教育の実践例などを共有し、本校ならではの家庭科教育の充実を図る。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒自身が生活を見つめなおし、それに対する解決策・改善策を探求し、今後の生活に活用できるように一緒に考えることができた。ホームプロジェクトに1年生を中心として多くの生徒が取り組むことができた。元気まるこフェスタへの出展や上田女子短期大学のサポート講座の実施、Nフェスへの参加に取り組むことができた。 2 感染症対策に留意しながら実験・実習を実施することができた。信州学をはじめ、社会人講師を招聘し専門的、先進的な指導を行ることができた。家庭科技術検定や各種コンテスト・コンクールへの応募を促し、検定の取得やコンテストへの入賞をサポートできた。 3 タブレットや電子黒板を活用した授業を実施できた。実践例の共有に関してはあまり進まなかったため、次年度もさらに力を入れて進めていきたい。 4 校内外の研修会等に積極的に参加し、本校ならではの家庭科教育の充実について考える機会を設けることができた。

部署名	福祉
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の福祉の基礎学力の定着と、実践を意識した学びの充実 2 他教科や地域と連携し学習内容・方法の深化に努める 3 社会の変容と福祉の繋がりを生徒が理解し、今後の社会を考える力を身につける 4 新課程における指導方法および学習評価について研究する
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉教科と日常生活を結びつけ、日々の学習を行う ・福祉関係の職業人の講演等の実施、ベルポートまるこでの技術講習 ・タブレットや電子黒板の効果的な活用の検討 2 他教科や地域との関わりから、様々な視点からの学習ができるよう追求する 3 新聞記事等を題材にし、今起きていることからこれからを考える学習の実施 4 教科「福祉」だけでなく、他の実技・実習のある教科とも意見交換をし、評価方法を検討する
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 外部講師を招聘し、現場により近い学びに繋げることができた。コロナ禍ではあるが、綿密に連絡をとりできるだけ多くの現場実習・技術講習に向け外部との調整・生徒への指導を行い、実現することができた。 2 地域連携事業を2回実施し、「高校生が地域の方に教える」立場になり、事前に様々な想定をし、準備を行い実践することができた。地域の課題を考えたり、生徒自身の総合研究に活かすこともでき、幅広い視点を身に付けることができた。 3 物価高騰など、今を取り巻くニュースについて触れ生徒の社会への関心を高めることができた。 4 実習のある教科に意見を伺い、それを踏まえた評価方法を検討することができた。

・係

部署名	教務
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 災害・感染症等への危機意識を高め、安心・安全が担保された学校運営を行う。 2 コロナ禍における学びの継続について、新学習指導要領もふまえて、これまでの教育活動の成果と課題の明確化および情報共有をする。 3 本校における活動の趣旨や取り組み状況を、各種メディアを利用して情報発信し、校内外問わず理解を深め、関心を高めてもらう。 4 総合研究や探究学習等、学習センターとしての役割を担うために資料の充実を図るとともに、図書館利用者の増加に繋がるような企画、展示、掲示を行う。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 危機管理マニュアルについて、情報収集を行い他校の状況も把握したうえで、災害ごと、事象ごとにマニュアルの追加や刷新を図る。 2 教育課程委員会、情報管理係および各教科と連携して、オンライン授業の実施で得た知見をとりまとめ、課題の明確化を図り情報共有をする。 3 新聞やテレビといったマスメディアに取材依頼を積極的に行うだけでなく、教科、部活動等に協力依頼してHP、インスタグラムの更新回数を増やす。 4 新着図書や授業に役立つであろう資料は積極的に図書館だより等での宣伝を行う。また、図書委員と協力し、様々な企画を立案、実施する。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 危機管理マニュアルについては、新年度になってからの情報に内容の更新を行った。新年度に内容を再度精査する。 2 オンライン授業以外に ICT 機器を使用した授業展開について、情報共有を行った。学級閉鎖、学年閉鎖の際には実習系授業以外ではオンライン授業を行うことが通常となった。 3 事象ごとにより掲載の可否を管理職に判断してもらう形で更新を行った。教科、部活動への協力依頼を次年度以降も強化していく。 4 図書館利用の促進、図書館のイメージアップに関わる効果的な宣伝を行うことができた。

部署名	情報管理
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 【情報管理】校務の情報化、教育の情報化に関わるシステム導入、機器導入などが職員の負担とならないよう確かな支援を行う。また、全職員がICT機器を利用した授業を行うことでBYOD端末の有効な活用ができるように支援する。 【教務支援】統合型校務支援を利用して行う業務についての情報を職員全体で共有し、円滑に作業が進められるように努める。 【視聴覚】放送委員会の行う放送を通じて、全校生徒に正確な情報や明るいメッセージを提供する。放送機器の準備・運用を通して行事が円滑に進行するように努める。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 【情報管理】わかりやすい説明、マニュアル作りに努める。ネットワーク活用委員会と連携し、オンラインによる学習支援や学習効果を上げるICT活用の実践を進める。 【教務支援】今年度より導入となった統合型校務支援を利用した業務が円滑に実施できるよう適切な時期に案内を行う。時間割に関する業務（年間・考査・特編）、講座選択に関わる業務は他の分掌と連携しながら進める。 【視聴覚】放送委員会の活動として職員の指導の下、朝・昼・清掃時に放送を行う。文化祭時の放送を担当する。学校紹介等のビデオ制作を行う。行事・式典時の放送業務を担当する。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 【情報管理】情報端末や電子黒板、校内ネットワークの維持管理、ロイロノート・すららの研修実施などを通じてICTを活用した学習の支援を行うことができた。また、Teamsやオクレンジャーを通じた情報伝達についても円滑に行うことができた。生徒用のタブレットについては破損や故障について、概ね授業に支障なく対応できた。学年末のタブレット回収や新入生向けタブレット購入についても滞りなく業務を遂行できた。機器の納入・設置にあたっては事務室にご協力いただき、予定の作業を完了することができた。 【教務支援】C4thの運用開始に伴い、欠課入力や成績処理など必要な場面でマニュアルや手順を周知することができた。観点別評価や通知票の表記変更についても対応した。考査時間割作成にあたっては、ペーパーレス化を進め、動静調査や配布をより円滑に行うことができた。講座選択においては生徒の入力内容をシステムに反映させる方法を見いだし、業務の効率化を図ることができた。 【視聴覚】日々の放送当番や各種行事において放送委員会の活動を適切に支援することができた。また、コロナ対策に伴うリモート集会・総合研究発表会にも対応することができた。

部署名	生徒指導
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 規範意識を高め、学びの場づくりを支援する いじめや暴力はもちろん、からかひや嫌がらせのない明るい集団作りを支える。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 全職員の協力体制の下、頭髪服装指導の徹底を図る。 情報端末に関する学校統一ルールの徹底 遅刻・中抜け・無断早退等の防止に努め、授業に向かう姿勢を醸成 生活実態調査を行い、生徒の状況を把握する。 生徒相談・生徒会等校内各部署との情報交換を密にし、連携を図る。 職員及び保護者へ指導方針や方法について発信
結果	<ol style="list-style-type: none"> 頭髪の色を一度変えてしまった生徒がしっかり直さないために、繰り返しの指導を要した。制服を着用して登下校していないため、制服忘れが毎日のようにいた。 一人一台タブレット所持に誘発される学校生活の乱れの報告はほとんど受けていない。 スマートフォンの朝預かり、帰り返却と全職員の協力を得て行う授業時校内巡視が、遅刻・中抜け・無断早退の防止に効果を上げている。 生徒状況の把握、いじめ防止に効果を上げている。 関係部署と生徒情報を共有することにより、生徒のための生徒指導を行うことができた。 生徒の校則違反を校則違反と知らない保護者もいる。指導方針が十分に行き届いていない結果である。

部署名	生徒相談
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 心身に不安を抱える生徒を早期に発見し、担当者間の情報共有を密にする。 2 校内外の関係機関及び保護者と適切に連携をとり、円滑な学校生活・社会生活が送れるよう生徒を支援する。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 スクールカウンセラーの有効活用を立案、実施する。 2 SCの学年会への参加、SCによるスクリーニングを実施する。 3 アセス(学校環境適応間尺度)の調査を全学年で実施し、活用する。 4 学年会で支援が必要な生徒の情報を共有してもらい、その情報を係で集約して、必要に応じ係チーム支援会議・教科担当者会議等を開催する。 5 養護教諭、各学年、生徒指導係、生徒相談係合同係会を実施する。 6 相談力向上事業における教職員ワークショップ、生徒ワークショップ、保護者ワークショップを計画し、実施する。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 今年度もカウンセリングをお願いすることが多く、時間が足りなくなってしまった。活用時間増をお願いしたい。 2 SCの学年会への参加は実現できなかったが、SCによる担任・相談係へのコンサルテーションはその後の指導に大変有効であった。 3 1・2年は年2回、3年は年1回アセス調査を実施し、調査後はそれぞれの学年で検討会を行った。1学年では生活満足度等の低い生徒が多く、係で面談を行い、また、心配な生徒については上田養護学校巡回訪問指導員に面談してもらった。 4 学年会での情報共有により、SCやSSW、教科担当会議等に繋げることができた。また、上田養護学校巡回指導員に学年会に参加していただき助言いただいた。今後も情報共有を継続していきたい。 5 コロナ禍で、なかなか合同会議を持つことは出来なかったが、養護教諭、学年、生徒指導係とは個別に情報共有を行い、連携することができた。 6 今年度、相談力向上事業のワークショップを行い、教職員、生徒、保護者ともに良い結果を得られた。来年度も、実施できるよう提案していきたい。

部署名	生徒会
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒会活動の運営や学校行事等を積極的に企画・運営できるようにするとともに、発生した問題に対して自分たちで解決できる力を養う。 2 自律した生活態度を養うとともに、生徒の自主性・主体性を高める。 3 一人ひとりの能力向上を図るとともに、より良い生徒会運営や学校生活の改善をはからせる。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種生徒会行事における実施計画などを、生徒会本部役員、各正副委員長に立案させ、生徒が責任をもって業務に当たらせる。 2 PDCAサイクルを繰り返させ、より良い生徒会活動をすすめるための方法を、生徒自ら考えさせ、実行させる。 3 上記のことを実践させるために、個々に応じた助言を職員が行う。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 感染症対策をしながら、役員を中心にさまざまな行事のあり方を考えさせ、責任をもって業務にあたらせることができた。 2 行事ごとに振り返りを行い、改善点をまとめた。また、来年度に向けた各行事の準備を進めている。 3 個別に助言をするとともに、生徒会顧問全体で活動をサポートしている。これまでの活動に加え、生徒間の連携と引継をスムーズにするための機会を設けるなど、次年度も見据えたサポートを進めることができた。

部署名	進路指導
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の職業意識・進路意識を高め、学習意欲の喚起に努める。 2 生徒の進路実現のために、校内指導体制を充実させ、外部機関も活用する。 3 進路情報の収集・整理・提供に努める。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 各学年・教科・係との連携を密にして模擬試験、補習等の一層の充実を図る。ショート・スタディなどを通して、基礎学力の定着・向上を目指す。また、社会とのつながりや将来の社会的自立に繋げていく。 2 サポートシステム(教科の教員も含めての全員指導体制)や複数副担任制を十分に活用し、面接や小論文などに対する万全な指導体制を確立する。出口指導は進路指導の一部にしか過ぎない。学校の諸活動すべてが「人格形成」の場であることを再認識し、教職員が一丸となって指導にあたる。 3 資料・情報を収集・整理し充実させると共に、職員間の情報共有に努める。特に、より具体的に有効な情報を提供し、十分に活用できるよう指導することで、三者(生徒・保護者・教師)の意思統一に基づいた進路実現を目指す。情報提供には Teams, Classroom を有効活用する。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 オープンキャンパスや模試、事業所説明会などを通して進路実現に向けた意識を高め、意欲的に取り組むことができた。《3年》 校内企業説明会を3年ぶりに実施することができ、今後の進路選択の一助とすることができた。《2年》 コロナ対策が継続する中、インターンシップや進学説明会などを通じて進路について考えることができた。《1年》 2 進学希望者に向けた補習、外部講師を招いての講演などを実施した。また、面接や小論文の指導では多くの先生方の協力をいただき、生徒の進路実現に繋げることができた。 3 進学情報誌のクラス配布、各学校資料の頒布、オープンキャンパス情報や求人情報の掲示などを行った。

部署名	総合学科推進
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 総合学科の特色ある教育活動を推進し、総合学科に対する理解の促進をはかるとともに、学習と自己のあり方や生き方を結びつける充実したキャリア教育を実践し、深い自己理解・社会理解に裏打ちされた人間力の養成に努める。 2 1学年 「産業社会と人間」を中心としたキャリア教育を展開し、目先の進路だけでなく、今後の人生を考えるうえで根幹となる考え方や汎用的スキルの修得を目指す。 3 2学年 自己の具体的な進路設計を行うとともに、グループ活動など協動的な学習を通じ、探究活動を行うための基礎力の修得を目指す。 4 3学年 自らの学びの集大成としての総合研究を充実させるとともに、教科間連携を推進し、多面的・多角的な視野を大切に協動的な探究活動に挑戦する。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 1学年の「産業社会と人間」においては、社会の変化によりこれからの時代を生きていくうえで必要な力について理解を深めると共に、インターンシップや上級学校見学などを通じ、職業理解・社会認識を深めた上で、講座選択に取り組ませる。 2 2学年の「キャリア・スタディ」では、講座別の探究授業を行うことにより、自己理解を深化させる。加えて「総合研究」への足がかりとなる探究基礎力の養成に向けたプレ探究活動などを展開していく。 3 3学年の「総合研究」においては協働研究を推進するとともに、系列を中心とした連携を深め、知識や技術の深化と総合化をはかる。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程委員会と連携し、新課程に向けた調整や学習評価の改善、新課程におけるキャリア教育科目の研究などを進めることができた。 2 1学年では「産業社会と人間」において、インターンシップや上級学校見学など外部と連携した学びを進めることができたが、学習時間の配分や評価方法については今後も研究が必要である。 3 2学年では「キャリアスタディ」において、プレ探究活動を進めてきた。次年度より科目が探究基礎へ変更となるため、年間計画や評価の再考が必要である。 4 3学年では「総合研究」において、探究的な学びを展開し、自己の学びと社会とのつながりを明確にすることができた。今後は教員側も探究学習に関する指導方法や評価方法について研究を深めていきたい。

部署名	厚生
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒と教職員の健康を保持増進する。 2 学校環境を整備し、教育活動が円滑に行われる様に環境を適切に調整する。 3 感染症に対する予防対策を推進する。 4 衛生的で、よりよい学習環境づくりのための日々の清掃活動指導。 5 行事日前・後の（行事日を活用した）清掃指導の強化。 6 ゴミ分別指導の徹底。（可燃ゴミ・再生紙・プラスチック等） 7 ゴミステーション生徒当番制の運用。 8 清掃用具等の補充・交換および収納状況の点検指導。
方策（取り組み）	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康診断、検査等を計画的に実施する。LHR時に講師を招き、薬物や性問題など学校生活に基づく話をお願いし、望ましい健康観を育てる。教職員を対象に心肺蘇生法講習を開く。 2 水質検査、危険箇所の確認のための巡視、採光や空気などの調査を随時行う。また、学校医や学校薬剤師との連携を密にし、生徒や教職員が生活しやすい環境を整える。 3 手洗いの奨励、換気の実施、施設の消毒等できる範囲で実行していく。 4 委員会生徒及び職員による定期的点検清掃。 5 行事前後の校内清掃を全校生徒で実施。 6 定期的な清掃用具点検。 7 各教室の受講生徒数の机・椅子数確認を年度末に実施(引継ぎ)。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 日程の変更はあったがほぼ計画通り実施できた。 2 計画通り実施した。 3 養護教諭、係からの呼びかけや委員の仕事として実施した。 4 日々の清掃活動指導は先生方にご協力いただきながら実施できている。 5 行事日前後の徹底清掃指導は計画通り実施できている。 6 ゴミステーションでの美化委員会による分別指導を継続中。 7 ゴミステーション生徒当番は正副委員長を中心に計画通り実施できている。 8 清掃用具の補充は実施継続中である。モップの交換を実施し、残りの半分は今後実施予定。

部署名	渉外
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 PTA行事を通して、保護者・教職員の信頼関係および親睦を深め、教育活動の円滑化を図る。 2 感染症対策を講じ、安心して参加してもらえるPTA活動を行う。 3 同窓会業務の円滑な運営に協力する。 4 同窓会組織の維持・拡大に協力する。 5 同窓会の会員相互の親睦及び学校との連携を図る。 6 創立110周年に向けて円滑な運営に協力する。
方策（取り組み）	<ol style="list-style-type: none"> 1 オクレンジャーを活用し、PTA活動への参加協力を促す。 2 「PTA 総会資料」や「PTA 会報かがやき」の配布等により、学校の取組みや学校の近況を保護者に伝えると共に、具体的な感染症対策を情報発信して諸行事への参加を促し、保護者・教職員の信頼関係の構築と教育活動の円滑化に努める。 3 同窓会諸行事の円滑な運営と行事内容の再検討 4 同窓会組織拡大への具体的な対策を検討する。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 PTA行事、専門部の連絡等をオクレンジャーの利用により確実に行うことができた。 2 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、PTA総会は書面審議とした。感染拡大の時期と重なったためPTA作業は計画をしなかった。PTA研修として人権教育の一環としてCAPワークショップを実施した。感染対策を講じて計画・実施することができた。 3 今年度の同窓会総会は、コロナ禍ではあったが総会は、開催することが出来た。但し、各支部総会等は軒並み中止となった。また、コロナ禍の影響で同窓会員の退会連絡増加と同窓会費の徴収減が増加してきている。今後の同窓会の運営にも影響が考えられる。 4 創立110周年記念事業について計画通りに正門改修工事、記念式典、記念講演、会報特別号の発行、共に無事に行う事が出来た。 5 在校生への就職支援事業は今後も続行し、また、クラブ振興等でも在校生に支援を行った。